

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 蔵王 )

事業所番号	0670102128		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん 黄金		
所在地	山形市黄金 81-1		
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 4 日	開設年月日	平成 18 年 3 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 29年 2月 27日	評価結果決定日	平成 29年 3月 28日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に会社の理念と接遇スローガンを全職員が暗唱し実践出来る様に心がけています。接遇スローガンの自己評価を今年度は3回実施している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地区の行事に参加したり、以前地区で開業していた理容所の方から来てもらい、利用者様の散髪をしてもらったり、避難訓練時には地区の方数名ですが参加をしてもらっています。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の一斉清掃や施設周りのゴミ集め等を行っています。又、ゴミ置き場の清掃も順番で行なっています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施をしています。地区会長・地区民生員・協力施設・包括の職員・家族の代表・利用者様代表と施設の状況報告や意見要望などを出してもらっています。意見要望にはどの様に生かしたか報告を行なっています。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からの連絡や会議には出来る限り参加をし連携を図っています。樺沢地区のネットワーク連絡会にも出席をし、地区に福祉協力員の方々に施設の状況を説明し交流を持つことが出来ています。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	危険に繋がってしまう恐れのある時には安全を考えて入口の鍵をかけています。利用者様の離設時に骨折の事故が有り入院手術になったケースが有り、運営推進会議の中でも相談した結果、玄関の鍵については臨機応変で良いのではないかとセンサーを設置しては、とか意見が有りました。自分の家でも玄関には鍵はかけている。との話もありました。施設内では自由に過ごして頂いていますが、一歩施設の外に出ると車の往來が激しく、危険が多きく悩んで居る所です。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社にて高齢者虐待防止について研修が有り、研修を受けてきた職員による伝達研修を行い、職員全員が虐待についての勉強を行なっています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社でのケアマネ会議の勉強会では外部講師を呼び詳しく学習をし支援に役立てています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明させて頂いて、納得した上で署名捺印をしてもらっています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でも意見や要望を求めています。玄関には意見箱も設置しております。家族の方の面会時などにも色々話を聞き改善できる所は改善を行なっています。			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・カンファレンス・改善シートで意見を聞く機会を設けている。良い案が有れば取り入れている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働ける様な職場・環境を作れるように意見を聞いたりしている。給与水準や労働時間については本社との交渉となるが、改善についての要望はしている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量を見ながら外部研修に参加をしている。又、教育委員が毎月勉強会を実施している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形市グループホーム連絡会の研修に参加をして、交流を持っています。又、施設に迎えに来るデイケアのスタッフと利用者様の事で情報を共有し、不測の事態に対処出来る様に努めています。			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にサマリ・フェイスシート・ケアプラン等に目を通し利用者様の特性を把握するようにしています。入所後は、利用者様の話をよく聞き、不安や要望に早く築けるような関わりを持っています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用にあたっては、家族の要望を良く聞き取りながら、出来る限り要望に応えられるように関係作りを図っています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始するにあたって、今必要なサービスは何か話し合いを行い、他のサービスも視野に入れながら対応をしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々について、出来る事・出来ないことを見極めて支援をしています。出来る所は手伝いをお願いし、感謝の言葉も忘れないように対応をしています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者様の担当者がお便りを作成し施設での生活の様子・健康状態をお知らせしています。何かあれば、直ぐに家族の方に連絡・報告をしています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	おもてなしの心で定期的に来所される家族の方や友人にはいつでも来れる様に面会時間の制限はしていません。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションを図るために職員が話題を提供して会話が進むようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も連絡や相談が有れば随時対応を行なっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話ができる方は本人から要望を聞き取りをしていますが、話が出来ない方・思いが言えない方に関しては、家族の方に聞き取りをしアセスメントを作成しケアプラン作成を行なっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリやフェイスシートに目を通して利用者様の性格・生活習慣・病歴・趣味嗜好等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを元に、日々の申し送りやカンファレンス等で情報を共有し、統一したケアを提供するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとの見直しや入院・退院時の状況が変わった時の見直しなどその時々状況変化によつてのケアプランの見直し時には家族や本人はもとより、関係者との話し合いの元現状に即したプランの作成を行なっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護を提供した記録や意見を元にカンファレンスの話し合いの場にて介護計画の見直しに活用し、職員間で情報を共有している。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前、榎沢地区で理容所をやっていた方が移転してからも散髪しに来て下さったり、近隣のボランティア様の毎月のカラオケ披露等で良好な関係を築いている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本家族対応だが、月2回のかかりつけ医の往診での対応も行なっている。本人が今までの病院が良く、家族の方が対応してくださればそのままの医療機関受診になっています。緊急時などは、医療機関と連絡を取りながら対応をしています。			
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職員は利用者様の健康状態を把握している。又、職員は日常生活の情報や気づきを看護職員に伝え相談し適切な対応を出来る様に支援している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送入院の場合職員が付き添い情報提供書を提出している。退院の際には御家族様と医療機関との連携を行い速やかに施設の生活に適応出来る様に支援している。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の可能性がある場合や医療行為が必要になった時には、家族の方に施設で出来る事を説明をし、御家族様がどうしていきたいかを聞いて行き今後の方針を決めています。又、特別養護老人ホームへの入所の話なども勧めたりもしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成してあり全職員周知しており適切な対応を行なっている。又、職員同士のサポートも協力出来ている。ただ職員全員が身に付けてはいない。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は今年度は1回実施しているが、2回目は3月に予定をしています。1回は消防署立ち会いの訓練を実施しています。施設の近隣住民の協力体制を早急に確立していきたいと思っています。地区の消防団への声掛けは別に要らないのではないかと消防署の方より有りました。消防署が近くにある為との事でした。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心・自尊心に配慮します言葉にいたわりを持ち、尊敬感謝の気持ちを忘れないようにします。と会社の接遇マナーにあるように、職員は接遇マナーを頭に浮かべながら業務についています。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が希望や要望を言いやすいような環境作りに努める為、利用者様の話をよく聞くようにしています。又、意思表示の出来ない方は表情や行動等を見て判断したり、御家族様からの聞き取りなどからも判断しています。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた時間を考慮し希望を取り入れながら支援をしている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替え爪や髪の手だしに気を配りおしゃれを支援している。散髪の希望があった際には、随時対応している。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使ったり、季節料理の提供や食べたい物の聞き取りをしての食事の提供なども行なっています。又、食事の下ごしらえや食事の後の片付け等も出来る方には手伝ってもらう様になっています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量を時間毎に記録をしています。食事の形態などもその人に合った形態で提供をしています。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの介助や声掛けなど毎回行っています。又、希望者の方には月4回の歯科往診も行なっており、歯科衛生士さんより口腔ケアをおKなってもらっています。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせて、排泄用品・時間を把握して、失敗の無い排泄介助を行う様に支援をしています。日中はリハビリパンツでトイレ介助を行いなるべくトイレでの排泄を心がけています。			
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況は排泄表・水分表・食事量等を参考にしています。一人一人の排泄パターンを把握して水分不足なのか運動不足なのか食事量が不足なのかを確認しながら排便コントロールを行なっています。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	会社の方針で、毎日入浴を行なっています。病院の先生から毎日の入浴の制限のある方については、指示通りに行なっています。又、毎日のバイタル測定の際にいつもと変わったところが有れば看護師や病院の先生に相談しながら支援しています。			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備や主治医との連携にて支援出来ている。不眠で眠れないとの訴えがある方には、主治医の指示通りに眠剤を服用してもらっています。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の服用している薬の説明書を見て何の薬なのか、どんな効果があるのかを把握して提供している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の話を聞き取り生活歴を見ながら、趣味・嗜好を把握し楽しみを持てる様に支援をしています。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	デイケアに行かれる方、家族の方や友人が迎えにきての外出・宗教活動・趣味のカラオケなどの参加など個人差はあるが楽しんで外出しています。又、施設行事で外出行事なども有り利用者様喜んで参加しています。ただ、現在職員不足もあり、一人一人の希望通りの外出が出来ていない現状もあります。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際になるべく大金は持たせないように話をしています。持たせてもなくなっても構わない位の金額をお願いしています。何か購入するときには、施設で立替をして請求の際請求をするように話をしています。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望があれば家族と連絡をして可能な限りやり取りを支援しています。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさ・温度・臭い・足元など利用者様が不快に思わないように、適温・食事の臭いなどにも気を付けて環境整備に努めています。又、フローアには季節感のある掲示物なども提示するようにしています。廊下や手すりには利用者様が邪魔になるものはおいていません。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアでの座る場所は気の合ったもの同士になる様に支援をしています。誰も居ないフローアに一人になって過ごしている方もいます。利用者様同士で部屋の行き来を行なっている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居後でも本人の希望で持ち込みたいものが有れば居室に持ちもめる物であれば可能な限り持ってきてもらっています。食器などもこだわりがあれば自分の物を使ってもらっています。利用者様が安心して過ごせるように馴染の物の持ち込みは可能です。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は可能な限りご自分で行なってもらおう。と会社の接遇マナーにもあるように出来る所わかる事を見つけて支援をしています。		